

空調設備に係るエネルギーの効率的利用(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ地域共通)

	項目	措置状況	配点	得点	措置の概要	備考
(1)外気負荷の軽減	定常時の外気の取り入れ	建築物の全取入外気量の90%以上に対して、熱交換効率が70%以上の全熱交換器及びバイパス制御を採用	2K ₁	5	全取入外気量の84.3%に対して、熱交換効率50%以上の全熱交換器を採用。	K ₁ : 表第2に掲げる数値
		建築物の全取入外気量の50%以上に対して、熱交換効率が50%以上の全熱交換器を採用	K ₁			
		上記に掲げるもの以外	0			
	予熱時の外気の取り入れ	外気の取り入れを停止することにより、予熱時における取入外気量を定常時における取入外気量の50%未満にする制御の方法を採用	K ₂	5	全取入外気量の99.0%に対して、予熱時外気シャットオフを採用。	K ₂ : 表第2に掲げる数値
上記に掲げるもの以外	0					
(2)室外機の設置場所及び配管長さ	マルチ方式	室外機が室内機よりも高い場合、配管長さが30mを超えるもの	K ₃	-10	高低高さと配管長さで決まる値の冷房能力加重平均: 40.5m。 配管長さの規定値の冷房能力加重平均: 30.7m。	K ₃ : 表第2に掲げる数値
		室外機が室内機よりも低い場合、配管長さが35mを超えるもの				
	マルチ方式以外	室外機が室内機よりも高い場合、室外機と室内機の高低差に配管長さを加えた値が配管長さが35mを超えるもの				
	室外機が室内機よりも高い場合、室外機と室内機の高低差に2を乗じて得た値に、配管長さを加えた値が配管長さが30mを超えるもの					
	上記に掲げるもの以外		0			
(3)熱源機器の効率	すべての空調設備の冷房能力の70%以上に対して、冷暖房平均COPが1.25以上の熱源機器を採用	60	40	全冷房能力の81.8%に対して、冷暖房平均COP1.15以上の熱源機器を採用。	駆動熱源として電力を用いる場合 $COP = (q_c \times C / C_w + q_H \times H / H_w) \times 3,600 / \alpha$ 駆動熱源としてガスを用いる場合 $COP = q_c \times C / (C_f + \alpha \times C_w / 3,600) + q_H \times H / (H_f + \alpha \times H_w / 3,600)$	
	すべての空調設備の冷房能力の70%以上に対して、冷暖房平均COPが1.15以上の熱源機器を採用	40				
	すべての空調設備の冷房能力の70%以上に対して、冷暖房平均COPが1.00以上の熱源機器を採用	20				
	上記に掲げるもの以外	0				
ポイント(点数の合計)			(A)	40		
地域: Ⅲ地域	用途: 事務所等	補正点	(B)	95	補正点(B) : 表第2のK ₀	
ポイント(A)+(B)				135		